

《小学生の部》
佳作（警察庁交通局長賞）

石川県金沢市立小坂小学校
4年 杉本 彩樹

交通安全を人任せにしない

「交通安全を人任せにしないこと。」これは、登下校のときに母がくり返し私に言う言葉です。通っている学童保育の前の歩道はとても危険です。車道がせまいため、自転車に乗った人たちが歩道を通ることが多いのです。歩道は「歩く人の道」です。だから、本当は歩行者がいる時には、自転車はおりて通らなければならないと聞きました。

でも、実際に自転車をおりてくれる人はほとんどいません。歩いているすぐ横を、スピードを出した自転車がびゅんびゅんと通りすぎていくことがあります。何度もぶつかりそうになって、とてもこわい思いをしています。

だから私は、自転車が来たときは立ち止まって、自転車が通りすぎるのを待つようにしています。ルールを守らない人が悪いのはもちろんです。でも、「歩行者が正しいんだから」と自分の行動をかたくなに変えなかつたら、ぶつかってケガをしてしまうのは自分です。もしも事故にあってしまったら、自分がこわい思いや痛い思いをするだけではありません。家族や友だちも、とても悲しい気持ちになります。だから私は、ルールを守らない人がいる時こそ、自分の安全をしっかり守ることが大切だと思います。

横断歩道をわたる時も、私は信号が青になんでもすぐには渡りません。車が止まっているかどうか、きちんと見てからわたるようにしています。母が兄を妊娠していた時、横断歩道の信号が青になったので、すぐに渡ろうとしたことがあったそうです。すると、赤信号に気づかなかった自動車がスピードを落とさずに、目の前を通りすぎていったそうです。あと一秒早く歩き出していたら、自動車にはねられていたかもしれません。その時のことを見出すると、母は今でも震えてしまうと言います。もし母がその時に事故にあっていたら、兄も私もこの世に生まれていなかったかもしれません。そう考えると、交通安全は本当に大切だと感じました。

交通安全を守るために、交通ルールを守るだけでなく、交通マナーを守ることも大切です。交通マナーとは、まわりの人のことを思いやる気持ちです。そして、「誰かが気をつけてくれるから大丈夫」ではなく、自分自身でもまわりの様子をよく見て、安全な行動をすることが大切だと思います。

あせっていると、まわりが見えなくなったり、正しい判断ができなくなったりします。

時間にゆとりがあれば、交通ルールをきちんと守ることもできるし、落ち着いて行動することもできます。私は、毎日少し早めに家を出るようにしています。そうすることで、安全に気をつけながら登下校ができるからです。

これからも、交通安全を人任せにせず、自分の目でまわりをよく見て、安全に気をつけ行動していきたいと思います。そして、私の大切な家族や友だちにも、交通安全の大切さを伝えていきたいです。